

公益社団法人日本薬剤師会
生涯学習支援システムJPALS運営要綱

1. システムの名称と構成

日本薬剤師会（以下、本会という）では、生涯学習支援システム JPALS（ジェイパルス）を運営している。JPALS は実践記録（ポートフォリオ）^{※1}と e-ラーニングの2つのシステムで構成されている。実践記録のシステムは、薬剤師としての日々の学習内容をノート代わりに記録するシステムであり、e-ラーニングシステムは、学習材料の一つとしてコンテンツを提供するシステムとして位置づけている。

2. JPALS の目的

JPALS は、国際薬剤師・薬学連合（FIP）が提唱する「継続的な専門能力開発（Continuing Professional Development）」（以下 CPD）^{※2}という4つのステップを繰り返す学習方法「①振り返って自己査定（reflection）」、「②学習計画を立て（planning）」、「③実践し（action）」及び「④評価する（evaluation）」をシステム化したものである。

JPALS の特色である実践記録（ポートフォリオ）の蓄積と、段階制の仕組みであるクリニカルラダー（以下 CL）の活用を以て、薬剤師の資質向上に寄与し、国民の保健・医療・福祉に貢献することを目的とする。

3. JPALS の利用対象

薬剤師国家資格を有する者および薬学生。

但し、薬学生は、実践記録への学習の記録、e-ラーニングの視聴のみであり、CL の仕組みの利用はできない。

4. JPALS の仕組み

利用者は、本会が公表している「薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード」^{※3}（以下 PS、別紙 1 参照）という 398 個の到達目標を指針としながら実践記録（ポートフォリオ）に学習内容を記録していくことで、学習の定着を図ることができる。加えて、段階制の仕組みである CL と昇格 Web テストにより、学習の進捗や達成度を確認できる。

1) クリニカルラダー（CL）

生涯学習継続においては達成感を得ながら進めることも必要であることから、CL という段階制の仕組みを導入している。CL はレベル 1～6 までが設定されており、CL レベル 1 を新人薬剤師、CL レベル 5 を管理薬剤師程度とする。各レベルの期間は 4 月～翌年 3 月の年度単位とし、昇格のタイミングは年 1 回で、4 月とする。システム登録後は CL レベル 1 から開始し、「1 年間に 6 本以上の実践記録提出」（提出期間：1 月 1 1 日～翌年 1 月 1 0 日）を基本の条件とし、Web テストに合格すれば、CL レベル 5 まで順次レベルを進めることができる。

CL の詳細については、「クリニカルラダーの昇格・降格について」（別紙 2）及び「クリニカルラダー図」（別紙 3）を参照のこと。また、CL レベル 5、6 の認定・更新等については「JPALS 認定薬剤師制度規程」を参照のこと。

2) JPALS のクリニカルラダー昇格 Web テストと薬剤師生涯学習達成度確認試験

CL レベル 1 から 5 まで、順に年 1 回昇格するためのクリニカルラダー昇格 Web テストは、実践記録の提出数が規定を満たし、且つプレチェックを完了した場合に受験可能となる。昇格 Web テストは各レベルに振り分けられた PS を範囲として出題され、昇格 Web テストの種類により出題数、合格ライン等は異なる。

CL レベル 5 に昇格後は、CL レベル 5 の維持、更新での継続利用は可能だが、CL レベル 6 に昇格するには、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬学会、日本薬剤師研修センター、日本薬剤師会の 5 団体が共同で実施する「薬剤師生涯学習達成度確認試験」に合格する必要がある。「薬剤師生涯学習達成度確認試験」の概要、JPALS 利用者の受験資格は下記の通りである。

なお、JPALS 以外の他団体の資格で「薬剤師生涯学習達成度確認試験」に合格し、申請した者を CL レベル 6 とする。

■クリニカルラダー昇格 Web テスト

【実施期間】 3 月 1 日～3 月 31 日の 1 カ月間（年 1 回・3 月のみ）

【受験要件等】

1 月 10 日までに次の①、② 2 つの要件を両方とも満たす必要がある。要件が満たされていれば、「システムからのお知らせ」メッセージが表示され、3 月 1 日 AM6:00 より受験可能となる。実施期間中であれば合格するまで何度でも受験できる。

- ①期日までに実践記録（ポートフォリオ）を 6 本以上、日本薬剤師会に提出していること。
- ②自分のレベルのプロフェッショナルスタンダード（PS）の「プレチェック」を完了していること。

【出題範囲、出題数、合格ライン及び制限時間】

昇格 Web テスト	出題範囲	出題数	合格ライン	制限時間
CL レベル 2 への昇格	CL レベル 1 の PS 26 項目	5 題	全問正解	15 分
CL レベル 3 への昇格	CL レベル 2 の PS 72 項目	5 題	4 問正解	15 分
CL レベル 4 への昇格	CL レベル 3 の PS 73 項目	10 題	7 問正解	30 分
CL レベル 5 への昇格	CL レベル 4 の PS 110 項目	50 題	30 問正解	100 分

【受験料】 無料。

■薬剤師生涯学習達成度確認試験

【実施日】原則7月最終週の日曜日に実施。(年1回・1日のみ)

【試験会場】日本薬剤師研修センターのホームページにて周知。全国で7カ所程度。

【JPALS 利用者の受験資格】①、②いずれの条件も満たしていること。

①薬剤師免許取得後5年以上であること。

②クリニカルラダーレベル5であり、且つレベル5に昇格後、1年を経過していること。

【試験内容】web 試験ではなく筆記試験(マークシート)。

日本医療薬学会の専門薬剤師認定試験に準ずる内容。

【受験料】22,000円(税込)、日本薬剤師会会員は11,000円(税込)

【受験申込・受験料振込先】(公財)日本薬剤師研修センター

5. JPALS システム利用料等

システム上で課金され、クレジットカード払いまたはコンビニ払いで決済する。CL レベル5と6の認定申請をした場合に認定証を発行する。CL レベル5の初回申請時を起点に、3年毎にCL レベル5またはCL レベル6として、認定更新の申請および申請料の支払が必要となる。

1) 実践記録(ポートフォリオ)システム

- ・日本薬剤師会会員…無料
- ・上記会員でない薬剤師…11,000円(税込) / 年 (JPALS 利用登録時より1年)
- ・上記会員でない薬学生…2,200円(税込) / 年 (JPALS 利用登録時より1年)

2) e-ラーニングシステム

- ・日本薬剤師会会員…当面無料
- ・上記会員でない薬剤師・薬学生…各コンテンツの利用料金
(JPALS 利用登録時より1年以内であれば、1回の支払で何度でも視聴可能。)

3) CL レベル5、6の認定申請(更新)料

- ・日本薬剤師会会員…5,500円(税込) / 回
- ・上記会員でない薬剤師の方…22,000円(税込) / 回

6. 認定

CL レベル5及びレベル6に昇格した場合は、昇格者の申請により本会が認定する。認定に関しては「JPALS 認定薬剤師制度規程」に別途定める。

7. 個人情報の取り扱い

本会の「個人情報保護方針」(別紙4)に準ずる。

8. 運営要綱の改定

本運営要綱の改定は必要に応じて行う。

2017年10月25日 制定

2021年4月1日 一部改定

2023年4月1日 一部改定

【基本的な用語の解説】

※1. 実践記録（ポートフォリオ）

実践記録（ポートフォリオ）に記録する内容は、研修会等への参加、職場での勉強会、書籍やインターネットで調べたこと、e-ラーニングの視聴など、薬剤師としての学習であれば、手段も内容も問わない。実践記録（ポートフォリオ）は自分用に保存しておくことも、本会へ提出することも可能である。本会へ提出された実践記録は、クリニカルラダー昇格 Web テストの受験資格判定の材料となる。

※2. 「継続的な専門能力開発」(CPD)

国際薬剤師・薬学連合 (FIP) は、4つのステップを繰り返す学習方法である「継続的な専門能力開発 (= Continuing Professional Development)」(CPD) を提唱している。多くの先進国では、CPD の考え方に基づいて生涯学習の義務化と免許更新が制度化されており、薬剤師職能の維持・向上のために重要な役割を果たしている。

【4つのステップ】

「振り返って自己査定 (reflection)」⇒「学習計画を立て (planning)」
⇒「実践し (action)」⇒「評価する (evaluation)」

※3. 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード (PS)

PS は、薬剤師が生涯に亘って学習し具備すべき知識、技能、態度を到達目標として明確化したもので、5領域、398項目に分類、整理されている。

【PSの活用】

1) PSのプレチェック

PSの到達目標398項目について、学習状況をチェックする（「学習した」、「学習していない」に振り分ける）作業である。ある時点での学習状況をチェックし、不足している項目を把握することで、PSの中で「学習した」項目と今後学習すべき項目を整理しながら、計画的に生涯学習を進めることができる。

2) PS登録

その学習内容に当てはまるPSがあれば、実践記録（ポートフォリオ）のSTEP2「PS登録」で、該当のPSに「学習した」とチェックを入れることで、自身の学習がPSの項目に偏りが無いかどうか、確認しながら学習することができる。偏りが無いかどうかは「PS学習状況確認」で確認できるため、その後の学習計画を立てるヒントとなる。

薬剤師に求められるプロフェSSIONALスタンダード 令和4年度版 領域別

【1. ヒューマニズム(倫理)】令和4年度版

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル	
1	1. 生命の尊厳を認識するために、医療人としての倫理観と責任感を身につける	生命倫理	薬剤師として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる	1	
2			1-1-2	薬剤師として、社会のニーズを把握できる	3
3			1-1-3	薬剤師として、社会のニーズに対応できる	5
4			1-1-4	薬剤師綱領を説明できる	1
5			1-1-5	薬剤師行動規範を説明できる	1
6			1-1-6	医療人として一般的な倫理規範を説明できる	3
7			1-1-7	医療倫理の歴史(ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓い等)を概説できる	1
8			1-1-8	医療の理念と薬剤師の責務を説明できる	1
9			1-1-9	医療にかかわる倫理的問題を列挙し、説明できる	4
10			1-1-10	薬剤師にかかわる倫理的問題を討議できる	4
11			1-1-11	生命科学に関する研究倫理を説明できる	2
12			1-1-12	生命倫理の原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)を説明できる	2
13			1-1-13	人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議できる	4
14			1-1-14	自らの体験を通して、生命の尊さと医療のかかわりを討議できる	5
15			1-1-15	誕生(生殖補助医療、出生前診断等)にかかわる倫理的問題を説明できる	5
16			1-1-16	医療の進歩(ゲノム医療、臓器移植、再生医療等)に伴う倫理的問題を説明できる	5
17			1-1-17	死(安楽死、尊厳死、終末期ケア等)にかかわる倫理的問題を説明できる	5
18			1-1-18	倫理的問題に直面した際の適切な対応を討議できる	5
19			1-1-19	人生の最終段階における意思決定プロセス(延命治療、リビングウィル、DNAR等)を、QOLの観点から説明できる	5
20			1-1-20	心的外傷(トラウマ)、燃え尽き症候群(バーンアウト)への対処方法を説明できる	3
21			1-1-21	自身の心の問題に気づき、セルフケアができる	5
22			1-1-22	健康維持に影響を与える環境問題を考察し、討議できる	4
23	2. 患者中心の医療を実現するために、チーム医療の一員としての基本的な知識・技能・態度を修得する	チーム医療	ファーマシューティカルケアを説明できる	2	
24			1-2-2	ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる	4
25			1-2-3	患者の基本的権利(リスボン宣言等)を説明できる	2
26			1-2-4	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義を説明できる	2
27			1-2-5	チームワークの重要性を例示して説明できる	1
28			1-2-6	薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他の職種に助言等を求めることができる	3
29			1-2-7	多職種との情報共有と連携の重要性を討議できる	4
30			1-2-8	多職種との情報共有と連携を実践できる	5
31			1-2-9	相手の立場、文化、習慣が異なることを認識できる	5
32			1-2-10	相手の立場を尊重し、協調的態度で役割を実践できる	5
33			1-2-11	言語的及び非言語的コミュニケーションの方法を概説できる	3
34	3. 患者やその家族の心情を理解するために、薬剤師が担う行為の重要性を認識する	患者・家族への心理的配慮	患者やその家族の心理状態を把握し、多職種で共有する重要性を説明できる	3	
35			1-3-2	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる	4
36			1-3-3	病気が患者に及ぼす心理的影響を説明できる	5
37			1-3-4	患者やその家族のもつ価値観の多様性及び差別・偏見(スティグマ)を認識し、適切に対応できる	5
38			1-3-5	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を説明できる	4
39			1-3-6	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【1. ヒューマンズム(倫理)】令和4年度版

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル
40	3. 患者やその家族の心情を理解するために、薬剤師が担う行為の重要性を認識する	患者・家族への心理的配慮	疼痛緩和ケアを説明できる	3
41			疼痛緩和ケアを実践できる	5
42			末期患者の精神的ケアを説明できる	4
43			末期患者の精神的ケアを実践できる	5
44			認知症患者のケアを説明できる	4
45			認知症患者のケアを実践できる	5
46	4. 患者が自分の疾患に正面から向き合い、治療に積極的に取り組めるようサポートするための 知識・技能・態度を身につける	患者・家族へのカウンセリングスキル	病名を告知された患者やその家族の心理状態に配慮できる	3
47			カウンセリングの基本的なスキルを説明できる	4
48			患者やその家族の話を傾聴できる	3
49			患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握できる	5
50			患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル
1 2-1-1	1. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品情報収集の手段を整備し信頼性の高い情報の収集・加工・活用の方法を身につける	医薬品情報	様々な情報源(一次、二次、三次資料)とその特徴を説明できる	1
2 2-1-2			情報収集に必要な書籍やウェブサイト等を説明できる	1
3 2-1-3			情報通信機器を利用した文献の検索方法を説明できる	1
4 2-1-4			情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる	1
5 2-1-5			情報通信機器を利用して医療及び医薬品情報を適切に活用できる	5
6 2-1-6			当該医薬品の最新の注意事項等情報やインタビューフォームから必要な情報を収集できる	1
7 2-1-7			注意事項等情報やインタビューフォームの記載事項を、種々の学術情報の収集分析を通じて独自に評価できる	5
8 2-1-8			注意事項等情報やインタビューフォームの併用注意に関する情報の取捨選択が、その重要度に応じて行える	3
9 2-1-9			当該医薬品及び類似化合物に関する臨床報告を収集できる	4
10 2-1-10			医療用医薬品と要指導医薬品及び一般用医薬品の違いを説明できる	1
11 2-1-11			要指導医薬品及び一般用医薬品に配合されている薬物を調べ、その薬効を説明できる	2
12 2-1-12			保険診療における医薬品の保険適用を説明できる	3
13 2-1-13			医薬品の費用対効果を評価できる	5
14 2-1-14			後発医薬品の選択を明確な理由に基づいて行える	3
15 2-1-15			医療情報の信頼性やエビデンスレベルを説明できる	3
16 2-1-16			医療情報の信頼性やエビデンスレベルを評価できる	5
17 2-1-17			質の高い学術情報に基づいて適切な薬剤を提案できる	5
18 2-1-18			臨床報告の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙できる	2
19 2-1-19			医薬品の臨床報告(和文・英文)の批判的吟味ができる	5
20 2-1-20			学術及び医学専門用語の意味を調べて説明できる	2
21 2-1-21			製薬企業等の提供情報を種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる	5
22 2-1-22			医薬品情報に対し、目的に応じた適切な取捨選択が行える	4
23 2-1-23			複数の学術資料を比較し、医薬品情報の信頼性や対立情報の有無を検証できる	5
24 2-1-24			EBMの基本概念と有用性、実践のプロセスを説明できる	4
25 2-1-25			体系的に収集・整理した医薬品情報を、他の医療スタッフや専門職の会議等で適切に提供できる	5
26 2-1-26			医薬品の市販後に行われる調査(製造販売後調査及び試験、市販後調査等)の手順を説明できる	3
27 2-1-27			患者や医療スタッフの求めに対し、対象者に応じて医薬品情報を適切に説明できる	3
28 2-1-28			医薬品を調製するうえで、製剤学的問題点の改善方法を提案できる	5
29 2-1-29			患者の薬物療法を遂行するうえで、医薬品の薬物動態学的、薬理学的問題点の改善方法を提案できる	5
30 2-1-30			未経験の症例に対し、知識と経験と最新の医薬品情報に基づいて、具体的方策を提案できる	5
31 2-1-31		医療統計	臨床研究の主な研究デザインを説明できる	3
32 2-1-32			臨床研究のアウトカム指標(真と代用、主要と副次的)を説明できる	4
33 2-1-33			基本統計量(平均値、中央値、分散、標準偏差、標準誤差等)を説明できる	3
34 2-1-34			パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の主な手法を説明できる	3
35 2-1-35			臨床研究に用いられる主な統計解析手法(相関分析、回帰分析、カプラン・マイヤー等)を説明できる	5
36 2-1-36			臨床研究に用いられる主な指標(相対リスク、絶対リスク、治療必要数、オッズ比等)を説明できる	4
37 2-1-37		感染対策	無菌操作と無菌製剤を説明できる	3
38 2-1-38			無菌操作と無菌製剤処理を適切に行える	4

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル
39	1. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品情報収集の手段を整備し信頼性の高い情報の収集・加工・活用の方法を身につける	感染対策	標準的予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる	4
40			施設内外及び地域における感染事例の情報を多職種に適切に説明できる	4
41			代表的な消毒薬を列挙できる	1
42			代表的な消毒薬の使用法を説明できる	3
43			消毒対象に応じた適切な消毒薬の選択と消毒方法を提案できる	5
44			病原体の主な感染源と感染経路を列挙できる	3
45			施設内感染・市中感染の感染経路別対策を説明できる	4
46			代表的なワクチンを説明できる	3
47	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	感染症	主な感染症の病態と原因及び治療薬を説明できる	3
48			代表的な抗菌薬を体系的に分類し、抗菌スペクトルと作用機序を説明できる	3
49			薬剤耐性獲得の仕組みを説明できる	4
50			代表的な抗真菌薬の作用機序を説明できる	3
51			代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる	3
52			薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)対策を理解し、「抗微生物薬適正使用の手引き」の内容を説明できる	3
53			薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)対策を理解し、「抗微生物薬適正使用の手引き」に沿った薬物療法を提案できる	5
54			薬剤感受性や組織移行性等を考慮し、抗菌薬を適切に選択できる	5
55		悪性腫瘍	癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙できる	2
56			臓器別悪性腫瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
57			臓器別悪性腫瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
58			臓器別悪性腫瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
59		免疫系	代表的なアレルギー及び免疫に関する疾患を列挙・説明できる	2
60			アナフィラキシー・ショックの病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる	2
61			アナフィラキシー・ショックに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
62			後天性免疫不全症の病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる	3
63			後天性免疫不全症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
64			移植に関連して使用される薬物を列挙・説明できる	3
65			代表的な自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
66			代表的な自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群等)の代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
67			代表的な自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法が提案できる	5
68			内分泌	ホルモン産生及び分泌に関わる臓器の代表的な疾患を列挙できる
69		視床下部・脳下垂体疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2
70		視床下部・脳下垂体疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4
71		甲状腺疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2
72		甲状腺疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4
73		副腎疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2
74		副腎疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4
75		糖尿病とその合併症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2
76		糖尿病とその合併症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	

薬剤師に求められるプロフェSSIONALスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル
77 2-2-31	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	内分泌	糖尿病とその合併症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
78 2-2-32			脂質異常症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
79 2-2-33			脂質異常症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
80 2-2-34			脂質異常症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
81 2-2-35			高尿酸血症・痛風の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
82 2-2-36			高尿酸血症・痛風の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
83 2-2-37			高尿酸血症・痛風に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
84 2-2-38			内分泌・代謝系の疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
85 2-2-39			栄養	栄養障害の病態生理と代表的な治療(対応)法を列挙できる
86 2-2-40		経腸栄養療法及び代表的な栄養剤を説明できる		4
87 2-2-41		経腸栄養療法の管理と合併症を説明できる		4
88 2-2-42		静脈栄養療法及び代表的な栄養剤を説明できる		4
89 2-2-43		静脈栄養療法の管理と合併症を説明できる		4
90 2-2-44		精神	精神に関する代表的な疾患を列挙できる	2
91 2-2-45			統合失調症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
92 2-2-46			統合失調症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
93 2-2-47			統合失調症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
94 2-2-48			うつ病、双極性障害の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
95 2-2-49			うつ病、双極性障害の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
96 2-2-50			うつ病、双極性障害に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
97 2-2-51			睡眠障害の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
98 2-2-52			睡眠障害の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
99 2-2-53			睡眠障害に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
100 2-2-54			不安神経症(パニック障害等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
101 2-2-55			不安神経症(パニック障害等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
102 2-2-56			不安神経症(パニック障害等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
103 2-2-57			神経	神経及び筋に関する代表的な疾患及び治療薬を列挙できる
104 2-2-58		神経及び筋に関する代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4
105 2-2-59		中枢神経系疾患(てんかん、認知症、パーキンソン病、片頭痛等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2
106 2-2-60		中枢神経系疾患(てんかん、認知症、パーキンソン病、片頭痛等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4
107 2-2-61		中枢神経系疾患(てんかん、認知症、パーキンソン病、片頭痛等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる		5
108 2-2-62		皮膚・感覚器	眼に関する疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性、結膜炎等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
109 2-2-63			眼に関する疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性、結膜炎等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
110 2-2-64			眼に関する疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性、結膜炎等)の最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
111 2-2-65			耳鼻咽喉に関する疾患(メニエール病、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
112 2-2-66			耳鼻咽喉に関する疾患(メニエール病、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
113 2-2-67			耳鼻咽喉に関する疾患(メニエール病、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎等)の最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
114 2-2-68			皮膚疾患(アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル	
115	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	皮膚・感覚器	皮膚疾患(アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
116			皮膚疾患(アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
117			褥瘡の治療法を列挙・説明できる	4	
118			褥瘡の程度を評価し、状況に応じた薬物療法を提案できる	5	
119		循環器	心臓及び血管系に関する代表的な疾患を列挙できる	2	
120			不整脈の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
121			不整脈の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
122			不整脈に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
123			心不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
124			心不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
125			心不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
126			虚血性心疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
127			虚血性心疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
128			虚血性心疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
129			高血圧の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
130			高血圧の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
131			高血圧に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
132			脳血管疾患に関する代表的な疾患及び治療薬を列挙できる	2	
133			脳血管疾患の代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
134			呼吸器	肺及び気道に関する代表的な疾患を列挙できる	2
135				喘息及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
136				喘息及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
137				喘息及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
138			消化器	消化器系(胃・十二指腸、小腸・大腸、肝臓・胆道、膵臓)に関する代表的な疾患を列挙できる	2
139		消化性潰瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2	
140		消化性潰瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4	
141		消化性潰瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる		5	
142		炎症性腸疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2	
143		炎症性腸疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4	
144		炎症性腸疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる		5	
145		腸炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2	
146		腸炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4	
147	腸炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5			
148	肝炎・肝硬変の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2			
149	肝炎・肝硬変の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4			
150	肝炎・肝硬変に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5			
151	膵炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2			
152	膵炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4			

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル	
153	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	消化器	膵炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
154			便秘異常(便秘・下痢)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
155			便秘異常(便秘・下痢)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
156			便秘異常(便秘・下痢)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
157		整形	骨、関節に関する代表的な疾患を列挙できる	2	
158			骨粗鬆症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
159			骨粗鬆症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
160			骨粗鬆症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
161			関節リウマチの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
162			関節リウマチの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
163			関節リウマチに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
164			泌尿器	腎臓及び尿路に関する代表的な疾患を列挙できる	2
165		腎臓疾患(慢性腎臓病、急性腎障害、腎不全等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2	
166		腎臓疾患(慢性腎臓病、急性腎障害、腎不全等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4	
167		腎臓疾患(慢性腎臓病、急性腎障害、腎不全等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる		5	
168		排尿異常の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる		2	
169		排尿異常の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる		4	
170		排尿異常に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる		5	
171		男性生殖器		男性性腺に関する疾患(加齢男性性腺機能低下症候群、前立腺肥大症等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる	4
172				男性性腺に関する疾患(加齢男性性腺機能低下症候群、前立腺肥大症等)の代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
173				男性性腺に関する疾患(加齢男性性腺機能低下症候群、前立腺肥大症等)の最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5
174		産科・婦人科	代表的な婦人科疾患(子宮内膜炎、月経異常、乳腺症等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる	4	
175			代表的な婦人科疾患(子宮内膜炎、月経異常、乳腺症等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて、治療指針に沿った薬物療法を提案できる	5	
176			更年期特有の症状に対する薬物療法を列挙・説明できる	4	
177		漢方・漢方薬	産科領域に関わる生理及び病態生理と代表的な薬物療法を説明できる	4	
178			陰陽五行説等の漢方の基本理論を説明できる	2	
179		PK/PD	代表的な漢方薬・漢方製剤の構成とその作用及び患者特性に応じた用法・用量を説明できる	4	
180			薬物の用量と作用の関係を説明できる	3	
181			薬物の体内動態と薬効の関係を説明できる	3	
182			薬物の代表的な投与経路を、それぞれの特徴を説明できる	3	
183	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる		1		
184	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子の作用機序を説明できる		4		
185	血液組織関門(脳、胎児等)の構造・機能を説明できる		4		
186	薬物の脳・胎児・乳汁中等への移行性を説明できる		1		
187	薬物と血漿タンパク質との結合と薬効の関係を説明できる		4		
188	薬物と血漿タンパク質との結合と薬物の組織移行性の関係を説明できる		4		
189	薬物の代謝様式(第一相反応、第二相反応)と主要な代謝酵素を説明できる		4		
190	薬物の主要排泄経路(尿中、胆汁中等)を説明できる		1		

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル	
191	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	PK/PD	薬物の初回通過効果を説明できる	1	
192			薬物の初回通過効果の変動因子を詳しく説明できる	5	
193			薬物の肝クリアランスを説明できる	4	
194			薬物の腎クリアランスを説明できる	4	
195			薬物の血中濃度推移と全身クリアランス、バイオアベイラビリティ、分布容積を説明できる	3	
196			反復投与時の薬物血中濃度推移を説明できる	3	
197			TDMの意義を説明できる	2	
198			TDMのデータに基づいて適正な投与方法を提案できる	5	
199			母集団薬物動態学の概念と応用を説明できる	3	
200			母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる	4	
201			薬物の体内動態と作用発現に影響を与える遺伝的素因(代謝酵素とトランスポーター等)を説明できる	4	
202			薬物の生体膜透過に関わる主要なトランスポーターを説明できる	4	
203			特殊集団	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる	1
204				新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる	5
205				高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる	1
206	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる	1			
207	妊婦に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる	5			
208	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる	1			
209	腎疾患・腎機能低下を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙・説明できる	2			
210	肝疾患・肝機能低下を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙・説明できる	2			
211	腎疾患・腎機能低下を伴った患者の病態や検査値を評価し、処方提案できる	4			
212	肝疾患・肝機能低下を伴った患者の病態や検査値を評価し、処方提案できる	5			
213	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙・説明できる	2			
214	3. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品の効果や副作用、相互作用を理解し、対応する能力を身につける	薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、服薬アドヒアランスを確認できる	3	
215			患者とのコミュニケーションを通して、身体状況(栄養状態、身体機能等)、生活状況を確認できる	4	
216			患者とのコミュニケーションを通して、医薬品の効果、副作用、相互作用に関する情報を収集できる	4	
217			診療記録や看護記録、検査所見等から、医薬品の効果、副作用、相互作用に関する情報を収集できる	3	
218			代表的な検査値の意義と基準値を説明できる	2	
219			薬学的判断に必要な検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる	4	
220			薬物療法の効果及び副作用発現について、患者の症状や検査所見等から評価できる	4	
221			適正にフィジカルアセスメント(身体評価)を実施できる	4	
222			不適切な処方について、その理由を説明できる	2	
223			多職種が日常的に使用している専門用語を正確に説明できる	3	
224		多職種との情報交換を通じ、医薬品の効果、副作用、相互作用に関する情報を収集できる	4		
225		薬学的介入	多職種との情報交換を通じ、薬物相互作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5	
226			検査値の変化に応じ、必要な薬物療法を提案できる	5	
227			医薬品の適正使用に必要な検査の提案ができる	5	
228			ポリファーマシーの改善に向けた各種指針を説明できる	4	

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、有効性、経済性)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLLレベル
229	3. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品の効果や副作用、相互作用を理解し、対応する能力を身につける	薬学的介入	得られた患者情報から医薬品の効果や副作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として薬物療法を提案できる	5
230			期待する効果が現れない、もしくは不十分である場合の対処法を提案できる	5
231			医薬品適正使用の観点から、未経験の症例に対する薬物使用に関する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる	5
232			不適切な処方について、適切な事例もしくは代替案を提案できる	5
233		副作用	心臓・血管系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
234			消化器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
235			腎臓・尿路系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
236			精神神経疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
237			内分泌系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
238			呼吸器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
239			産科・婦人科領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる	4
240			小児領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる	4
241			高齢者の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる	4
242			外科・整形・形成外科領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる	4
243			抗菌薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる	3
244			抗悪性腫瘍薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
245			皮膚・感覚器領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる	3
246			代表的な漢方薬・漢方製剤に関する副作用とその兆候を説明できる	3
247			相互作用及び副作用の回避策を列挙できる	4
248			相互作用及び副作用の回避策を、過去の事例や資料、および患者の状態を勘案して提案できる	5
249			医薬品の有害作用について、患者の心情に配慮して説明できる。	4
250			医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用に関する報告が行える	4
251			副作用及び薬物相互作用の疑いのある事例について、公的機関等への報告が行える	4
252			相互作用と副作用の観点から、未経験の症例に対する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる	5

薬剤師に求められるプロフェSSIONALスタンダード 令和4年度版 領域別

【3. 地域住民の健康増進(薬物乱用防止、セルフメディケーション)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	GLレベル
1 3-1-1	1. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、疾病とその予防及び保健に関わる基本的な知識・技能・態度を身につける	健康増進	セルフケア・セルフメディケーションの意義を適切に説明できる	1
2 3-1-2			セルフケアのための健康食品を適切に提案できる	3
3 3-1-3			要指導医薬品及び一般用医薬品の第一類、二類、三類を概説できる	1
4 3-1-4			セルフメディケーションのための要指導医薬品及び一般用医薬品を適切に提案できる	3
5 3-1-5			飲酒と喫煙が健康に及ぼす影響を説明できる	2
6 3-1-6			禁煙指導ができる	5
7 3-1-7			生活習慣が健康に及ぼす影響を説明できる	3
8 3-1-8			食育の意義を説明できる	3
9 3-1-9			健康食品の摂取意義と有害作用を説明できる	3
10 3-1-10			食品及び健康食品と医薬品の相互作用を説明できる	3
11 3-1-11			疾病の予防方法(食生活や生活環境等を含む)を適切に助言できる	5
12 3-1-12			予防接種の意義と制度を説明できる	4
13 3-1-13		保健相談	需要者(顧客)に対してわかりやすい言葉、表現を用い説明できる	3
14 3-1-14			需要者(顧客)の要望を的確に把握し、必要とする情報を提供できる	5
15 3-1-15			医師への受診勧奨を適切に行うことができる	5
16 3-1-16			プレコンセプションケア(妊娠前の健康管理)を説明できる	4
17 3-1-17			避妊法及び緊急避妊法を説明できる	3
18 3-2-1	2. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、薬剤師としての地域保健活動を身につける	地域保健活動	麻薬や覚醒剤等の乱用薬物が人体に及ぼす影響を説明できる	2
19 3-2-2			学校薬剤師の役割と活動を説明できる	2
20 3-2-3			学校薬剤師として活動できる	5
21 3-2-4			ドーピングとその有害作用を説明できる	3
22 3-2-5			地域におけるスポーツファーマシストの役割と活動を説明できる	3
23 3-2-6			地域における薬物乱用防止活動ができる	5
24 3-2-7			地域住民に対し医薬品の適正使用について啓発活動ができる	5
25 3-2-8			話題性のある薬物をわかりやすく説明できる	3
26 3-2-9			地域住民の健康増進について具体的に提案できる	5
27 3-2-10			環境衛生	地域住民に対し環境衛生に関する助言ができる
28 3-2-11		日常生活に用いる化学物質の適正使用について説明できる		3
29 3-2-12		日用品に含まれる化学物質の危険性から回避するための方法を提案できる		5
30 3-2-13		誤飲や誤食による中毒に対して適切に助言できる		4
31 3-3-1	3. 地域包括ケアシステムに貢献するために薬剤師として必要な知識・技能・態度を身につける	地域包括ケア	地域包括ケアシステムを説明できる	3
32 3-3-2			地域住民の家庭環境を考慮した必要な支援を提案できる	5
33 3-3-3			要支援・要介護者の介護状況を把握し、適切に対応できる	5
34 3-3-4			保健・医療・介護・福祉活動の中で多職種と連携できる	5
35 3-3-5		在宅医療	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を説明できる	2
36 3-3-6			訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を行うことができる	5
37 3-3-7			衛生材料・介護用品・福祉用具等を説明できる	3
38 3-3-8			衛生材料・介護用品・福祉用具等を必要とする地域住民に対して適切に対応できる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【3. 地域住民の健康増進(薬物乱用防止、セルフメディケーション)】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	GLレベル
39	4. 地域で連携して住民の健康維持・増進に寄与するために、医療分野におけるデジタル技術を理解し、活用する能力を身につける	電子化対応	電子的な保健医療情報の取扱いを説明できる	2
40			EHR(電子健康記録)等のICT関連用語を説明できる	3
41			医療分野の情報化に関するガイドライン等を概説できる	4
42	5. 災害・緊急時に対応するために、薬剤師として必要な知識・技能・態度を身につける	災害・緊急時対応	災害時における薬剤師の役割を説明できる	3
43			業務継続計画(BCP)の内容を説明できる	4
44			災害発生時に適切な初期行動をとることができる	5
45			災害時に備えた適切な患者指導ができる	5
46			災害・緊急時における医薬品の供給と管理について指導できる	5
47			心肺停止状態に対応するための基本的な知識を概説できる	2
48			心肺停止状態を判断でき、自動体外式除細動器を適切に取り扱うことができる	4

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 領域別

【4. リスクマネジメント】

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	GLレベル
1 4-1-1	1. 国民に安全・安心な医療を提供するために、必要な医療安全対策の方法を身につける	医療安全対策	医療安全に関する用語の説明ができる	2
2 4-1-2			「ヒヤリハット事例」を適切に報告できる	1
3 4-1-3			医療安全に関する重要な情報を収集できる	3
4 4-1-4			医薬品がもつ危険性を説明できる	3
5 4-1-5			過去に起こった医療事故(調剤事故)事例の内容を説明できる	4
6 4-1-6			薬剤師が取り組む医療安全対策の意義を理解し、要点を説明できる	5
7 4-1-7			医薬品の安全使用の観点から適切な品質管理ができる	4
8 4-2-1	2. 医療の安全性を高めるために、リスクに応じた医療事故やインシデント対策を身につける	医療事故防止対策	医療事故(調剤事故)報告制度を説明できる	2
9 4-2-2			医療事故(調剤事故)やインシデント報告を分析し、その原因が解明できる	5
10 4-2-3			具体的な医療事故(調剤事故)やインシデント防止対策を提案できる	5
11 4-2-4			実施中の医療事故(調剤事故)やインシデント防止対策を評価できる	5
12 4-3-1	3. 国民に安心・安全な医療を提供するために、医療事故発生時における、適切な対処方法を身につける	医療事故発生時対応	医療事故(調剤事故)発生時の対応の流れを説明できる	4
13 4-3-2			医療事故(調剤事故)発見時に必要部署に報告できる	3
14 4-3-3			医療事故(調剤事故)発見時に適切に患者対応できる	5
15 4-3-4			医療事故(調剤事故)解決のため、適切に対処(行動)できる	5
16 4-3-5			メンタル面のフォローを含め医療事故(調剤事故)を起こした人に適切に対応できる	5
17 4-4-1	4. 医療の安全性をより高めるために、リスク管理を行う習慣を身につける	リスク管理	リスクマネジメントの概念を説明できる	3
18 4-4-2			医療安全管理指針と業務手順書を理解し、遵守して業務を遂行できる	2
19 4-4-3			ヒューマンエラー及びメカニカルエラーが不可避であることを認識し、それぞれの危険性を列挙できる	3
20 4-4-4			医療事故(調剤事故)の起こりやすい因子を説明できる	4

薬剤師に求められるプロフェSSIONALスタンダード 令和4年度版 領域別

【5. 法律・制度の遵守】

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	GLレベル
1 5-1-1	薬剤師の社会的責務を果たすために、薬剤師を取り巻く法律・制度を理解し遵守する	薬事関連法規	薬機法の規定を列挙できる	1
2 5-1-2			薬機法の規定を説明できる	3
3 5-1-3			薬機法に基づいた適切な行動ができる	5
4 5-1-4			薬剤師法の規定を列挙できる	1
5 5-1-5			薬剤師法の規定を説明できる	3
6 5-1-6			薬剤師法に基づいた適切な行動ができる	5
7 5-1-7			薬剤師に関連する法令の構成を説明できる	3
8 5-1-8			麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法等を説明できる	2
9 5-1-9			麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法等に基づき、適切な取り扱い・管理を実践できる	3
10 5-1-10			薬剤師の基本的責任を逸脱した場合の罰則法律を説明できる	3
11 5-1-11		医療法等	医療法の重要項目を列挙できる	2
12 5-1-12			医療法の重要項目を説明できる	4
13 5-1-13			医療法で規定される医療計画を説明できる	5
14 5-1-14			医師法等関連医療職種の方令の重要項目を列挙・説明できる	5
15 5-1-15		社会保障制度	健康保険法の重要項目を列挙できる	2
16 5-1-16			健康保険法の重要項目を説明できる	3
17 5-1-17			保険医療機関及び保険医療養担当規則を説明できる	3
18 5-1-18			保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則を説明できる	3
19 5-1-19			社会保障制度・医療保険制度を説明できる	5
20 5-1-20			介護保険法の重要項目を説明できる	3
21 5-1-21			医療介護総合確保促進法を説明できる	5
22 5-1-22		その他の法規・制度等	個人情報保護法を説明できる	2
23 5-1-23			個人情報保護法に基づいた適切な行動ができる	5
24 5-1-24			感染症法等医療に関連する法令及び通知を説明できる	5
25 5-1-25			医薬品副作用被害救済制度及び予防接種健康被害救済制度等を説明できる	3
26 5-1-26			調剤過誤発生時の法的責任を説明できる	4
27 5-1-27			薬事関連法規に基づき相談に対応できる	5
28 5-1-28		臨床研究法や生命科学・医学系研究に関する倫理指針を説明できる	5	

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLLレベル別

CL LEVEL1

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(26項目)
1 1-1-1	生命倫理	薬剤師として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2 1-1-4	生命倫理	薬剤師綱領を説明できる
3 1-1-5	生命倫理	薬剤師行動規範を説明できる
4 1-1-7	生命倫理	医療倫理の歴史(ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓い等)を概説できる
5 1-1-8	生命倫理	医療の理念と薬剤師の責務を説明できる
6 1-2-5	チーム医療	チームワークの重要性を例示して説明できる
7 2-1-1	医薬品情報	様々な情報源(一次、二次、三次資料)とその特徴を説明できる
8 2-1-2	医薬品情報	情報収集に必要な書籍やウェブサイト等を説明できる
9 2-1-3	医薬品情報	情報通信機器を利用した文献の検索方法を説明できる
10 2-1-4	医薬品情報	情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる
11 2-1-6	医薬品情報	当該医薬品の最新の注意事項等情報やインタビューフォームから必要な情報を収集できる
12 2-1-10	医薬品情報	医療用医薬品と要指導医薬品及び一般用医薬品の違いを説明できる
13 2-1-41	感染対策	代表的な消毒薬を列挙できる
14 2-2-137	PK/PD	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる
15 2-2-140	PK/PD	薬物の脳・胎児・乳汁中等への移行性を説明できる
16 2-2-144	PK/PD	薬物の主要排泄経路(尿中、胆汁中等)を説明できる
17 2-2-145	PK/PD	薬物の初回通過効果を説明できる
18 2-2-157	特殊集団	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる
19 2-2-159	特殊集団	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる
20 2-2-160	特殊集団	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる
21 2-2-162	特殊集団	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙・説明できる
22 3-1-1	健康増進	セルフケア・セルフメディケーションの意義を適切に説明できる
23 3-1-3	健康増進	要指導医薬品及び一般用医薬品の第一類、二類、三類を概説できる
24 4-1-2	医療安全対策	「ヒヤリハット事例」を適切に報告できる
25 5-1-1	薬事関連法規	薬機法の規定を列挙できる
26 5-1-4	薬事関連法規	薬剤師法の規定を列挙できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLLレベル別

CL LEVEL2

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域—般目標—到達目標	小領域	到達目標(72項目)
1 1-1-11	生命倫理	薬剤師として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2 1-1-12	生命倫理	生命倫理の原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)を説明できる
3 1-2-1	チーム医療	ファーマシューティカルケアを説明できる
4 1-2-3	チーム医療	患者の基本的権利(リスボン宣言等)を説明できる
5 1-2-4	チーム医療	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義を説明できる
6 2-1-11	医薬品情報	要指導医薬品及び一般用医薬品に配合されている薬物を調べ、その薬効を説明できる
7 2-1-18	医薬品情報	臨床報告の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙できる
8 2-1-20	医薬品情報	学術及び医学専門用語の意味を調べて説明できる
9 2-2-9	悪性腫瘍	癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙できる
10 2-2-10	悪性腫瘍	臓器別悪性腫瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
11 2-2-13	免疫系	代表的なアレルギー及び免疫に関する疾患を列挙・説明できる
12 2-2-14	免疫系	アナフィラキシー・ショックの病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる
13 2-2-19	免疫系	代表的な自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
14 2-2-22	内分泌	ホルモン産生及び分泌に関わる臓器の代表的な疾患を列挙できる
15 2-2-23	内分泌	視床下部・脳下垂体疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
16 2-2-25	内分泌	甲状腺疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
17 2-2-27	内分泌	副腎疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
18 2-2-29	内分泌	糖尿病とその合併症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
19 2-2-32	内分泌	脂質異常症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
20 2-2-35	内分泌	高尿酸血症・痛風の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
21 2-2-39	栄養	栄養障害の病態生理と代表的な治療(対応)法を列挙できる
22 2-2-44	精神	精神に関する代表的な疾患を列挙できる
23 2-2-45	精神	統合失調症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
24 2-2-48	精神	うつ病、双極性障害の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
25 2-2-51	精神	睡眠障害の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
26 2-2-54	精神	不安神経症(パニック障害等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
27 2-2-57	神経	神経及び筋に関する代表的な疾患及び治療薬を列挙できる
28 2-2-59	神経	中枢神経系疾患(てんかん、認知症、パーキンソン病、片頭痛等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
29 2-2-62	皮膚・感覚器	眼に関する疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性、結膜炎等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
30 2-2-65	皮膚・感覚器	耳鼻咽喉に関する疾患(メニエール病、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
31 2-2-68	皮膚・感覚器	皮膚疾患(アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
32 2-2-73	循環器	心臓及び血管系に関する代表的な疾患を列挙できる
33 2-2-74	循環器	不整脈の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
34 2-2-77	循環器	心不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
35 2-2-80	循環器	虚血性心疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
36 2-2-83	循環器	高血圧の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
37 2-2-86	循環器	脳血管疾患に関する代表的な疾患及び治療薬を列挙できる
38 2-2-88	呼吸器	肺及び気道に関する代表的な疾患を列挙できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLLレベル別

CL LEVEL2

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(72項目)
39 2-2-89	呼吸器	喘息及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
40 2-2-92	消化器	消化器系(胃・十二指腸、小腸・大腸、肝臓・胆道、膵臓)に関する代表的な疾患を列挙できる
41 2-2-93	消化器	消化性潰瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
42 2-2-96	消化器	炎症性腸疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
43 2-2-99	消化器	腸炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
44 2-2-102	消化器	肝炎・肝硬変の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
45 2-2-105	消化器	膵炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
46 2-2-108	消化器	便秘異常(便秘・下痢)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
47 2-2-111	整形	骨、関節に関する代表的な疾患を列挙できる
48 2-2-112	整形	骨粗鬆症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
49 2-2-115	整形	関節リウマチの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
50 2-2-118	泌尿器	腎臓及び尿路に関する代表的な疾患を列挙できる
51 2-2-119	泌尿器	腎臓疾患(慢性腎臓病、急性腎障害、腎不全等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
52 2-2-122	泌尿器	排尿異常の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
53 2-2-132	漢方・漢方薬	陰陽五行説等の漢方の基本理論を説明できる
54 2-2-151	PK/PD	TDMの意義を説明できる
55 2-2-163	特殊集団	腎疾患・腎機能低下を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙・説明できる
56 2-2-164	特殊集団	肝疾患・肝機能低下を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙・説明できる
57 2-2-167	特殊集団	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙・説明できる
58 2-3-5	薬学的観察	代表的な検査値の意義と基準値を説明できる
59 2-3-9	薬学的観察	不適切な処方について、その理由を説明できる
60 3-1-5	健康増進	飲酒と喫煙が健康に及ぼす影響を説明できる
61 3-2-1	地域保健活動	麻薬や覚醒剤等の乱用薬物が人体に及ぼす影響を説明できる
62 3-2-2	地域保健活動	学校薬剤師の役割と活動を説明できる
63 3-3-5	在宅医療	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を説明できる
64 3-4-1	電子化対応	電子的な保健医療情報の取扱いを説明できる
65 3-5-6	災害・緊急時対応	心肺停止状態に対応するための基本的な知識を概説できる
66 4-1-1	医療安全対策	医療安全に関する用語の説明ができる
67 4-2-1	医療事故防止対策	医療事故(調剤事故)報告制度を説明できる
68 4-4-2	リスク管理	医療安全管理指針と業務手順書を理解し、遵守して業務を遂行できる
69 5-1-8	薬事関連法規	麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法等を説明できる
70 5-1-11	医療法等	医療法の重要項目を列挙できる
71 5-1-15	社会保障制度	健康保険法の重要項目を列挙できる
72 5-1-22	その他の法規・制度等	個人情報保護法を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLLレベル別

CL LEVEL3

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(73項目)
1 1-1-2	生命倫理	薬剤師として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2 1-1-6	生命倫理	医療人として一般的な倫理規範を説明できる
3 1-1-20	生命倫理	心的外傷(トラウマ)、燃え尽き症候群(バーンアウト)への対処方法を説明できる
4 1-2-6	チーム医療	薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他の職種に助言等を求めることができる
5 1-2-11	チーム医療	言語的及び非言語的コミュニケーションの方法を概説できる
6 1-3-1	患者・家族への心理的配慮	患者やその家族の心理状態を把握し、多職種で共有する重要性を説明できる
7 1-3-7	患者・家族への心理的配慮	疼痛緩和ケアを説明できる
8 1-4-1	患者・家族へのカウンセリングスキル	病名を告知された患者やその家族の心理状態に配慮できる
9 1-4-3	患者・家族へのカウンセリングスキル	患者やその家族の話を傾聴できる
10 2-1-8	医薬品情報	注意事項等情報やインタビューフォームの併用注意に関する情報の取捨選択が、その重要度に応じて行える
11 2-1-12	医薬品情報	保険診療における医薬品の保険適用を説明できる
12 2-1-14	医薬品情報	後発医薬品の選択を明確な理由に基づいて行える
13 2-1-15	医薬品情報	医療情報の信頼性やエビデンスレベルを説明できる
14 2-1-26	医薬品情報	医薬品の市販後に行われる調査(製造販売後調査及び試験、市販直後調査等)の手順を説明できる
15 2-1-27	医薬品情報	患者や医療スタッフの求めに対し、対象者に応じて医薬品情報を適切に説明できる
16 2-1-31	医療統計	臨床研究の主な研究デザインを説明できる
17 2-1-33	医療統計	基本統計量(平均値、中央値、分散、標準偏差、標準誤差等)を説明できる
18 2-1-34	医療統計	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の主な手法を説明できる
19 2-1-37	感染対策	無菌操作と無菌製剤を説明できる
20 2-1-42	感染対策	代表的な消毒薬の使用法を説明できる
21 2-1-44	感染対策	病原体の主な感染源と感染経路を列挙できる
22 2-1-46	感染対策	代表的なワクチンを説明できる
23 2-2-1	感染症	主な感染症の病態と原因及び治療薬を説明できる
24 2-2-2	感染症	代表的な抗菌薬を体系的に分類し、抗菌スペクトルと作用機序を説明できる
25 2-2-4	感染症	代表的な抗真菌薬の作用機序を説明できる
26 2-2-5	感染症	代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる
27 2-2-6	感染症	薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)対策を理解し、「抗微生物薬適正使用の手引き」の内容を説明できる
28 2-2-16	免疫系	後天性免疫不全症の病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる
29 2-2-18	免疫系	移植に関連して使用される薬物を列挙・説明できる
30 2-2-134	PK/PD	薬物の用量と作用の関係を説明できる
31 2-2-135	PK/PD	薬物の体内動態と薬効の関係を説明できる
32 2-2-136	PK/PD	薬物の代表的な投与経路を、それぞれの特徴を説明できる
33 2-2-149	PK/PD	薬物の血中濃度推移と全身クリアランス、バイオアベイラビリティ、分布容積を説明できる
34 2-2-150	PK/PD	反復投与時の薬物血中濃度推移を説明できる
35 2-2-153	PK/PD	母集団薬物動態学の概念と応用を説明できる
36 2-3-1	薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、服薬アドヒアランスを確認できる
37 2-3-4	薬学的観察	診療記録や看護記録、検査所見等から、医薬品の効果、副作用、相互作用に関する情報を収集できる
38 2-3-10	薬学的観察	多職種が日常的に使用している専門用語を正確に説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLLレベル別

CL LEVEL3

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域—般目標—到達目標	小領域	到達目標(73項目)
39 2-3-30	副作用	抗菌薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる
40 2-3-32	副作用	皮膚・感覚器領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる
41 2-3-33	副作用	代表的な漢方薬・漢方製剤に関する副作用とその兆候を説明できる
42 3-1-2	健康増進	セルフケアのための健康食品を適切に提案できる
43 3-1-4	健康増進	セルフメディケーションのための要指導医薬品及び一般用医薬品を適切に提案できる
44 3-1-7	健康増進	生活習慣が健康に及ぼす影響を説明できる
45 3-1-8	健康増進	食育の意義を説明できる
46 3-1-9	健康増進	健康食品の摂取意義と有害作用を説明できる
47 3-1-10	健康増進	食品及び健康食品と医薬品の相互作用を説明できる
48 3-1-13	保健相談	需要者(顧客)に対してわかりやすい言葉、表現を用い説明できる
49 3-1-17	保健相談	避妊法及び緊急避妊法を説明できる
50 3-2-4	地域保健活動	ドーピングとその有害作用を説明できる
51 3-2-5	地域保健活動	地域におけるスポーツファーマシストの役割と活動を説明できる
52 3-2-8	地域保健活動	話題性のある薬物をわかりやすく説明できる
53 3-2-10	環境衛生	地域住民に対し環境衛生に関する助言ができる
54 3-2-11	環境衛生	日常生活に用いる化学物質の適正使用について説明できる
55 3-3-1	地域包括ケア	地域包括ケアシステムを説明できる
56 3-3-7	在宅医療	衛生材料・介護用品・福祉用具等を説明できる
57 3-4-2	電子化対応	EHR(電子健康記録)等のICT関連用語を説明できる
58 3-5-1	災害・緊急時対応	災害時における薬剤師の役割を説明できる
59 4-1-3	医療安全対策	医療安全に関する重要な情報を収集できる
60 4-1-4	医療安全対策	医薬品がもつ危険性を説明できる
61 4-3-2	医療事故発生時対応	医療事故(調剤事故)発見時に必要部署に報告できる
62 4-4-1	リスク管理	リスクマネジメントの概念を説明できる
63 4-4-3	リスク管理	ヒューマンエラー及びメカニカルエラーが不可避であることを認識し、それぞれの危険性を列挙できる
64 5-1-2	薬事関連法規	薬機法の規定を説明できる
65 5-1-5	薬事関連法規	薬剤師法の規定を説明できる
66 5-1-7	薬事関連法規	薬剤師に関連する法令の構成を説明できる
67 5-1-9	薬事関連法規	麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法等に基づき、適切な取り扱い・管理を実践できる
68 5-1-10	薬事関連法規	薬剤師の基本的責任を逸脱した場合の罰則法律を説明できる
69 5-1-16	社会保障制度	健康保険法の重要項目を説明できる
70 5-1-17	社会保障制度	保険医療機関及び保険医療養担当規則を説明できる
71 5-1-18	社会保障制度	保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則を説明できる
72 5-1-20	社会保障制度	介護保険法の重要項目を説明できる
73 5-1-25	その他の法規・制度等	医薬品副作用被害救済制度及び予防接種健康被害救済制度等を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLレベル別

CL LEVEL4

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(110項目)
1 1-1-9	生命倫理	薬剤師として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2 1-1-10	生命倫理	薬剤師にかかわる倫理的問題を討議できる
3 1-1-13	生命倫理	人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議できる
4 1-1-22	生命倫理	健康維持に影響を与える環境問題を考察し、討議できる
5 1-2-2	チーム医療	ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる
6 1-2-7	チーム医療	多職種との情報共有と連携の重要性を討議できる
7 1-3-2	患者・家族への心理的配慮	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる
8 1-3-5	患者・家族への心理的配慮	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を説明できる
9 1-3-9	患者・家族への心理的配慮	末期患者の精神的ケアを説明できる
10 1-3-11	患者・家族への心理的配慮	認知症患者のケアを説明できる
11 1-4-2	患者・家族へのカウンセリングスキル	カウンセリングの基本的なスキルを説明できる
12 2-1-9	医薬品情報	当該医薬品及び類縁化合物に関する臨床報告を収集できる
13 2-1-22	医薬品情報	医薬品情報に対し、目的に応じた適切な取捨選択が行える
14 2-1-24	医薬品情報	EBMの基本概念と有用性、実践のプロセスを説明できる
15 2-1-32	医療統計	臨床研究のアウトカム指標(真と代用、主要と副次的)を説明できる
16 2-1-36	医療統計	臨床研究に用いられる主な指標(相対リスク、絶対リスク、治療必要数、オッズ比等)を説明できる
17 2-1-38	感染対策	無菌操作と無菌製剤処理を適切に行える
18 2-1-39	感染対策	標準的予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる
19 2-1-40	感染対策	施設内外及び地域における感染事例の情報を多職種に適切に説明できる
20 2-1-45	感染対策	施設内感染・市中感染の感染経路別対策を説明できる
21 2-2-3	感染症	薬剤耐性獲得の仕組みを説明できる
22 2-2-11	悪性腫瘍	臓器別悪性腫瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
23 2-2-20	免疫系	代表的な自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群等)の代表的な治療薬の作用機序を説明できる
24 2-2-24	内分泌	視床下部・脳下垂体疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
25 2-2-26	内分泌	甲状腺疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
26 2-2-28	内分泌	副腎疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
27 2-2-30	内分泌	糖尿病とその合併症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
28 2-2-33	内分泌	脂質異常症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
29 2-2-36	内分泌	高尿酸血症・痛風の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
30 2-2-40	栄養	経腸栄養療法及び代表的な栄養剤を説明できる
31 2-2-41	栄養	経腸栄養療法の管理と合併症を説明できる
32 2-2-42	栄養	静脈栄養療法及び代表的な栄養剤を説明できる
33 2-2-43	栄養	静脈栄養療法の管理と合併症を説明できる
34 2-2-46	精神	統合失調症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
35 2-2-49	精神	うつ病、双極性障害の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
36 2-2-52	精神	睡眠障害の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
37 2-2-55	精神	不安神経症(パニック障害等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
38 2-2-58	神経	神経及び筋に関する代表的な治療薬の作用機序を説明できる
39 2-2-60	神経	中枢神経系疾患(てんかん、認知症、パーキンソン病、片頭痛等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLレベル別

CL LEVEL4

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(110項目)
40 2-2-63	皮膚・感覚器	眼に関する疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性、結膜炎等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
41 2-2-66	皮膚・感覚器	耳鼻咽喉に関する疾患(メニエール病、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
42 2-2-69	皮膚・感覚器	皮膚疾患(アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
43 2-2-71	皮膚・感覚器	褥瘡の治療法を列挙・説明できる
44 2-2-75	循環器	不整脈の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
45 2-2-78	循環器	心不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
46 2-2-81	循環器	虚血性心疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
47 2-2-84	循環器	高血圧の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
48 2-2-87	循環器	脳血管疾患の代表的な治療薬の作用機序を説明できる
49 2-2-90	呼吸器	喘息及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
50 2-2-94	消化器	消化性潰瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
51 2-2-97	消化器	炎症性腸疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
52 2-2-100	消化器	腸炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
53 2-2-103	消化器	肝炎・肝硬変の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
54 2-2-106	消化器	膵炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
55 2-2-109	消化器	便秘異常(便秘・下痢)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
56 2-2-113	整形	骨粗鬆症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
57 2-2-116	整形	関節リウマチの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
58 2-2-120	泌尿器	腎臓疾患(慢性腎臓病、急性腎障害、腎不全等)の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
59 2-2-123	泌尿器	排尿異常の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
60 2-2-125	男性生殖器	男性性腺に関する疾患(加齢男性性腺機能低下症候群、前立腺肥大症等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる
61 2-2-126	男性生殖器	男性性腺に関する疾患(加齢男性性腺機能低下症候群、前立腺肥大症等)の代表的な治療薬の作用機序を説明できる
62 2-2-128	産科・婦人科	代表的な婦人科疾患(子宮内膜症、月経異常、乳腺症等)の病態生理と代表的な治療薬を列挙・説明できる
63 2-2-130	産科・婦人科	更年期特有の症状に対する薬物療法を列挙・説明できる
64 2-2-131	産科・婦人科	産科領域に関わる生理及び病態生理と代表的な薬物療法を説明できる
65 2-2-133	漢方・漢方薬	代表的な漢方薬・漢方製剤の構成とその作用及び患者特性に応じた用法・用量を説明できる
66 2-2-138	PK/PD	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子の作用機序を説明できる
67 2-2-139	PK/PD	血液組織関門(脳、胎児等)の構造・機能を説明できる
68 2-2-141	PK/PD	薬物と血漿タンパク質との結合と薬効の関係を説明できる
69 2-2-142	PK/PD	薬物と血漿タンパク質との結合と薬物の組織移行性の関係を説明できる
70 2-2-143	PK/PD	薬物の代謝様式(第一相反応、第二相反応)と主要な代謝酵素を説明できる
71 2-2-147	PK/PD	薬物の肝クリアランスを説明できる
72 2-2-148	PK/PD	薬物の腎クリアランスを説明できる
73 2-2-154	PK/PD	母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる
74 2-2-155	PK/PD	薬物の体内動態と作用発現に影響を与える遺伝的素因(代謝酵素とトランスポーター等)を説明できる
75 2-2-156	PK/PD	薬物の生体膜透過に関わる主要なトランスポーターを説明できる
76 2-2-165	特殊集団	腎疾患・腎機能低下を伴った患者の病態や検査値を評価し、処方提案できる
77 2-3-2	薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、身体状況(栄養状態、身体機能等)、生活状況を確認できる
78 2-3-3	薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、医薬品の効果、副作用、相互作用に関する情報を収集できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLレベル別

CL LEVEL4

	領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(110項目)
79	2-3-6	薬学的観察	薬学的判断に必要な検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる
80	2-3-7	薬学的観察	薬物療法の効果及び副作用発現について、患者の症状や検査所見等から評価できる
81	2-3-8	薬学的観察	適正にフィジカルアセスメント(身体評価)を実施できる
82	2-3-11	薬学的観察	多職種との情報交換を通じ、医薬品の効果、副作用、相互作用に関する情報を収集できる
83	2-3-15	薬学的介入	ポリファーマシーの改善に向けた各種指針を説明できる
84	2-3-20	副作用	心臓・血管系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
85	2-3-21	副作用	消化器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
86	2-3-22	副作用	腎臓・尿路系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
87	2-3-23	副作用	精神神経疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
88	2-3-24	副作用	内分泌系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
89	2-3-25	副作用	呼吸器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
90	2-3-26	副作用	産科・婦人科領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる
91	2-3-27	副作用	小児領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる
92	2-3-28	副作用	高齢者の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる
93	2-3-29	副作用	外科・整形・形成外科領域の薬物療法において特に注意すべき副作用とその兆候を説明できる
94	2-3-31	副作用	抗悪性腫瘍薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる
95	2-3-34	副作用	相互作用及び副作用の回避策を列挙できる
96	2-3-36	副作用	医薬品の有害作用について、患者の心情に配慮して説明できる。
97	2-3-37	副作用	医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用に関する報告が行える
98	2-3-38	副作用	副作用及び薬物相互作用の疑いのある事例について、公的機関等への報告が行える
99	3-1-12	健康増進	予防接種の意義と制度を説明できる
100	3-1-16	保健相談	プレコンセプションケア(妊娠前の健康管理)を説明できる
101	3-2-13	環境衛生	誤飲や誤食による中毒に対して適切に助言できる
102	3-4-3	電子化対応	医療分野の情報化に関するガイドライン等を概説できる
103	3-5-2	災害・緊急時対応	業務継続計画(BCP)の内容を説明できる
104	3-5-7	災害・緊急時対応	心肺停止状態を判断でき、自動体外式除細動器を適切に取り扱うことができる
105	4-1-5	医療安全対策	過去に起こった医療事故(調剤事故)事例の内容を説明できる
106	4-1-7	医療安全対策	医薬品の安全使用の観点から適切な品質管理ができる
107	4-3-1	医療事故発生時対応	医療事故(調剤事故)発生時の対応の流れを説明できる
108	4-4-4	リスク管理	医療事故(調剤事故)の起こりやすい因子を説明できる
109	5-1-12	医療法等	医療法の重要項目を説明できる
110	5-1-26	その他の法規・制度等	調剤過誤発生時の法的責任を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLレベル別

CL LEVEL5

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(117項目)
1 1-1-3	生命倫理	薬剤師として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2 1-1-14	生命倫理	自らの体験を通して、生命の尊さと医療のかかわりを討議できる
3 1-1-15	生命倫理	誕生(生殖補助医療、出生前診断等)にかかわる倫理的問題を説明できる
4 1-1-16	生命倫理	医療の進歩(ゲノム医療、臓器移植、再生医療等)に伴う倫理的問題を説明できる
5 1-1-17	生命倫理	死(安楽死、尊厳死、終末期ケア等)にかかわる倫理的問題を説明できる
6 1-1-18	生命倫理	倫理的問題に直面した際の適切な対応を討議できる
7 1-1-19	生命倫理	人生の最終段階における意思決定プロセス(延命治療、リビングウィル、DNAR等)を、QOLの観点から説明できる
8 1-1-21	生命倫理	自身の心の問題に気づき、セルフケアができる
9 1-2-8	チーム医療	多職種との情報共有と連携を実践できる
10 1-2-9	チーム医療	相手の立場、文化、習慣が異なることを認識できる
11 1-2-10	チーム医療	相手の立場を尊重し、協動的態度で役割を実践できる
12 1-3-3	患者・家族への心理的配慮	病気が患者に及ぼす心理的影響を説明できる
13 1-3-4	患者・家族への心理的配慮	患者やその家族のもつ価値観の多様性や差別・偏見(スティグマ)を認識し、適切に対応できる
14 1-3-6	患者・家族への心理的配慮	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる
15 1-3-8	患者・家族への心理的配慮	疼痛緩和ケアを実践できる
16 1-3-10	患者・家族への心理的配慮	末期患者の精神的ケアを実践できる
17 1-3-12	患者・家族への心理的配慮	認知症患者のケアを実践できる
18 1-4-4	患者・家族へのカウンセリングスキル	患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握できる
19 1-4-5	患者・家族へのカウンセリングスキル	患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる
20 2-1-5	医薬品情報	情報通信機器を利用して医療及び医薬品情報を適切に活用できる
21 2-1-7	医薬品情報	注意事項等情報やインタビューフォームの記載事項を、種々の学術情報の収集分析を通じて独自に評価できる
22 2-1-13	医薬品情報	医薬品の費用対効果を評価できる
23 2-1-16	医薬品情報	医療情報の信頼性やエビデンスレベルを評価できる
24 2-1-17	医薬品情報	質の高い学術情報に基づいて適切な薬剤を提案できる
25 2-1-19	医薬品情報	医薬品の臨床報告(和文・英文)の批判的吟味ができる
26 2-1-21	医薬品情報	製薬企業等の提供情報を種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる
27 2-1-23	医薬品情報	複数の学術資料を比較し、医薬品情報の信頼性や対立情報の有無を検証できる
28 2-1-25	医薬品情報	体系的に収集・整理した医薬品情報を、他の医療スタッフや専門職の会議等で適切に提供できる
29 2-1-28	医薬品情報	医薬品を調製するうえで、製剤学的問題点の改善方法を提案できる
30 2-1-29	医薬品情報	患者の薬物療法を遂行するうえで、医薬品の薬物動態学的、薬理学的問題点の改善方法を提案できる
31 2-1-30	医薬品情報	未経験の症例に対し、知識と経験と最新の医薬品情報に基づいて、具体的方策を提案できる
32 2-1-35	医療統計	臨床研究に用いられる主な統計解析手法(相関分析、回帰分析、 Kaplan-Meier等)を説明できる
33 2-1-43	感染対策	消毒対象に応じた適切な消毒薬の選択と消毒方法を提案できる
34 2-2-7	感染症	薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)対策を理解し、「抗微生物薬適正使用の手引き」に沿った薬物療法を提案できる
35 2-2-8	感染症	薬剤感受性や組織移行性等を考慮し、抗菌薬を適切に選択できる
36 2-2-12	悪性腫瘍	臓器別悪性腫瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
37 2-2-15	免疫系	アナフィラキシー・ショックに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
38 2-2-17	免疫系	後天性免疫不全症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
39 2-2-21	免疫系	代表的な自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLレベル別

CL LEVEL5

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(117項目)
40 2-2-31	内分泌	糖尿病とその合併症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
41 2-2-34	内分泌	脂質異常症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
42 2-2-37	内分泌	高尿酸血症・痛風に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
43 2-2-38	内分泌	内分泌・代謝系の疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
44 2-2-47	精神	統合失調症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
45 2-2-50	精神	うつ病、双極性障害に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
46 2-2-53	精神	睡眠障害に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
47 2-2-56	精神	不安神経症(パニック障害等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
48 2-2-61	神経	中枢神経系疾患(てんかん、認知症、パーキンソン病、片頭痛等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
49 2-2-64	皮膚・感覚器	眼に関する疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性、結膜炎等)の最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
50 2-2-67	皮膚・感覚器	耳鼻咽喉に関する疾患(メニエール病、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎等)の最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
51 2-2-70	皮膚・感覚器	皮膚疾患(アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
52 2-2-72	皮膚・感覚器	褥瘡の程度を評価し、状況に応じた薬物療法を提案できる
53 2-2-76	循環器	不整脈に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
54 2-2-79	循環器	心不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
55 2-2-82	循環器	虚血性心疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
56 2-2-85	循環器	高血圧に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
57 2-2-91	呼吸器	喘息及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
58 2-2-95	消化器	消化性潰瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
59 2-2-98	消化器	炎症性腸疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
60 2-2-101	消化器	腸炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
61 2-2-104	消化器	肝炎・肝硬変に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
62 2-2-107	消化器	膵炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
63 2-2-110	消化器	便秘異常(便秘・下痢)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
64 2-2-114	整形	骨粗鬆症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
65 2-2-117	整形	関節リウマチに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
66 2-2-121	泌尿器	腎臓疾患(慢性腎臓病、急性腎障害、腎不全等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
67 2-2-124	泌尿器	排尿異常に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
68 2-2-127	男性生殖器	男性性腺に関する疾患(加齢男性性腺機能低下症候群、前立腺肥大症等)の最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針に沿った薬物療法を提案できる
69 2-2-129	産科・婦人科	代表的な婦人科疾患(子宮内膜炎、月経異常、乳腺症等)に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて、治療指針に沿った薬物療法を提案できる
70 2-2-146	PK/PD	薬物の初回通過効果の変動因子を詳しく説明できる
71 2-2-152	PK/PD	TDMのデータに基づいて適正な投与方法を提案できる
72 2-2-158	特殊集団	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる
73 2-2-161	特殊集団	妊婦に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる
74 2-2-166	特殊集団	肝疾患・肝機能低下を伴った患者の病態や検査値を評価し、処方提案できる
75 2-3-12	薬学的介入	多職種との情報交換を通じ、薬物相互作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
76 2-3-13	薬学的介入	検査値の変化に応じ、必要な薬物療法を提案できる
77 2-3-14	薬学的介入	医薬品の適正使用に必要な検査の提案ができる
78 2-3-16	薬学的介入	得られた患者情報から医薬品の効果や副作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として薬物療法を提案できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 令和4年度版 CLレベル別

CL LEVEL5

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	小領域	到達目標(117項目)
79 2-3-17	薬学的介入	期待する効果が現れない、もしくは不十分である場合の対処法を提案できる
80 2-3-18	薬学的介入	医薬品適正使用の観点から、未経験の症例に対する薬物使用に関する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる
81 2-3-19	薬学的介入	不適切な処方について、適切な事例もしくは代替案を提案できる
82 2-3-35	副作用	相互作用及び副作用の回避策を、過去の事例や資料、および患者の状態を勘案して提案できる
83 2-3-39	副作用	相互作用と副作用の観点から、未経験の症例に対する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる
84 3-1-6	健康増進	禁煙指導ができる
85 3-1-11	健康増進	疾病の予防方法(食生活や生活環境等を含む)を適切に助言できる
86 3-1-14	保健相談	需要者(顧客)の要望を的確に把握し、必要とする情報を提供できる
87 3-1-15	保健相談	医師への受診勧奨を適切に行うことができる
88 3-2-3	地域保健活動	学校薬剤師として活動できる
89 3-2-6	地域保健活動	地域における薬物乱用防止活動ができる
90 3-2-7	地域保健活動	地域住民に対し医薬品の適正使用について啓発活動ができる
91 3-2-9	地域保健活動	地域住民の健康増進について具体的に提案できる
92 3-2-12	環境衛生	日用品に含まれる化学物質の危険性から回避するための方法を提案できる
93 3-3-2	地域包括ケア	地域住民の家庭環境を考慮した必要な支援を提案できる
94 3-3-3	地域包括ケア	要支援・要介護者の介護状況を把握し、適切に対応できる
95 3-3-4	地域包括ケア	保健・医療・介護・福祉活動の中で多職種と連携できる
96 3-3-6	在宅医療	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を行うことができる
97 3-3-8	在宅医療	衛生材料・介護用品・福祉用具等を必要とする地域住民に対して適切に対応できる
98 3-5-3	災害・緊急時対応	災害発生時に適切な初期行動をとることができる
99 3-5-4	災害・緊急時対応	災害時に備えた適切な患者指導ができる
100 3-5-5	災害・緊急時対応	災害・緊急時における医薬品の供給と管理について指導できる
101 4-1-6	医療安全対策	薬剤師が取り組む医療安全対策の意義を理解し、要点を説明できる
102 4-2-2	医療事故防止対策	医療事故(調剤事故)やインシデント報告を分析し、その原因が解明できる
103 4-2-3	医療事故防止対策	具体的な医療事故(調剤事故)やインシデント防止対策を提案できる
104 4-2-4	医療事故防止対策	実施中の医療事故(調剤事故)やインシデント防止対策を評価できる
105 4-3-3	医療事故発生時対応	医療事故(調剤事故)発見時に適切に患者対応できる
106 4-3-4	医療事故発生時対応	医療事故(調剤事故)解決のため、適切に対処(行動)できる
107 4-3-5	医療事故発生時対応	メンタル面のフォローを含め医療事故(調剤事故)を起こした人に適切に対応できる
108 5-1-3	薬事関連法規	薬機法に基づいた適切な行動ができる
109 5-1-6	薬事関連法規	薬剤師法に基づいた適切な行動ができる
110 5-1-13	医療法等	医療法で規定される医療計画を説明できる
111 5-1-14	医療法等	医師法等関連医療職種の法令の重要項目を列挙・説明できる
112 5-1-19	社会保障制度	社会保障制度・医療保険制度を説明できる
113 5-1-21	社会保障制度	医療介護総合確保推進法を説明できる
114 5-1-23	その他の法規・制度等	個人情報保護法に基づいた適切な行動ができる
115 5-1-24	その他の法規・制度等	感染症法等医療に関連する法令及び通知を説明できる
116 5-1-27	その他の法規・制度等	薬事関連法規に基づき相談に対応できる
117 5-1-28	その他の法規・制度等	臨床研究法や生命科学・医学系研究に関する倫理指針を説明できる

クリニカルラダーレベルの昇格・降格について

1. CL レベルの昇格について

CL レベルの昇格判定は年度単位で行う。昇格判定のタイミングは年度末に実施する Web テスト期間中とする。

1) CL レベル 1～3

各年度 1 月 1 0 日までに以下①及び②の要件を両方満たすことで、Web テスト期間中に Web テストの受験が可能となり、合格を以て次レベルに昇格する。

【CL レベル 1～3 の Web テスト受験要件】

- ①「実践記録」(ポートフォリオ)を、当年度 6 本以上、JPALS システム上で本会に提出していること。
- ②自分のレベルのプロフェッショナルスタンダード(以下、PS という)の「プレチェック」を JPALS システム上で完了していること。

2) CL レベル 4

各年度 1 月 1 0 日までに以下①及び②の要件を満たし、かつ、Web テスト期間までに③が確認された場合、Web テスト期間中に Web テストの受験が可能となる。合格後、所定の手続きと認定料の支払いを以て、CL レベル 5 に昇格する。

【CL レベル 4 の Web テスト受験要件】

- ①「実践記録」(ポートフォリオ)を、当年度 6 本以上、JPALS システム上で本会に提出していること。
- ②自分のレベルの PS の「プレチェック」を JPALS システム上で完了していること。
- ③提出された「実践記録」(ポートフォリオ)が、本会の「Web テスト受験資格審査小委員会」によって確認されていること。

3) CL レベル 5

CL レベル 5 であり、かつ、CL レベル 5 に昇格後 1 年を経過していることを条件に「薬剤師生涯学習達成度確認試験」を受験し、合格することを以て CL レベル 6 に昇格する。

2. CL レベル 2～5 の降格について

CL レベルの降格判定は年度単位で行う。降格判定のタイミングは年度末(3 月 31 日)とし、翌年度より、降格後のレベルとなる。

1) CL レベル 2～4

「実践記録」(ポートフォリオ)を、JPALS システム上で本会に提出している本数が、当年度 1 月 10 日までに 6 本に満たない場合、翌年度は同レベルの維持(4. CL レベルの維持についてを参照)となる。同レベル 2 年目以降の場合に、当年度(2 年目)1 月 10 日までの「実践記録」(ポートフォリオ)の提出が 6 本未満であり、かつ、前年度(1 年目)と合わせて 1 2 本未満の場合、下位レベルに降格する。

2) CL レベル 5

「実践記録」(ポートフォリオ)を、JPALS システム上で本会に提出している本数が、認定期間(3 年)の最終年度の 1 月 1 0 日までに 1 8 本に満たない場合、CL レベル 4 に降格する。

なお、提出本数が要件を満たしていても所定の手続きと認定料の支払いを完了しない場合は、CL レベル 4 に降格する。

3. CL レベル 6 の要件未達成の場合の取り扱い

「実践記録」(ポートフォリオ)を、JPALS システム上で本会に提出している本数が、認定期間(3 年)の最終年度の 1 月 1 0 日までに 1 8 本に満たない場合、下位レベルに降格はしないが、4 月 1 日に CL レベルは非表示となる。但し、翌年 1 月 10 日までに 6 本以上提出した場合、提出年度末に、所定の手続きと認定料の支払いを行うことで、CL レベル 6 を再表示させ、認定期間は新たに 3 年となる。

4. CL レベルの維持・更新について

CL レベルの維持判定は年度単位で行う。維持判定のタイミングは年度末（3月31日）とし、翌年度も同レベルとなる。

1) CL レベル 2～4

「1. CL レベルの昇格について」または「2. CL レベルの降格について」の内容に該当しない場合は CL レベルを維持し、翌年度も同レベルとなる。

2) CL レベル 5 及び 6

CL レベル 5 及び 6 の更新等は「JPALS 認定薬剤師制度規程」を参照のこと。

【CL の仕組み 早見表】

	JPALS Web テスト受験要件 (いずれも 1 月 10 日まで)	昇格	降格	維持
CL レベル 1	①実践記録 6 本以上/当年度 ②CL1 の PS プレチェック	Web テストの合格を以て、次レベルに昇格	同レベル 2 年目以降の場合に、当年度の実践記録提出が 6 本未満であり、かつ、前年度と合わせて 12 本未満の場合に下位レベルに降格	昇格、降格に該当しない場合は、翌年度も同レベルを維持
CL レベル 2	①実践記録 6 本以上/当年度 ②CL2 の PS プレチェック			
CL レベル 3	①実践記録 6 本以上/当年度 ②CL3 の PS プレチェック			
CL レベル 4	①実践記録 6 本以上/当年度 ②CL4 の PS プレチェック ③提出された「実践記録」(ポートフォリオ)が、本会の「Web テスト受験資格審査小委員会」によって確認されていること	Web テストに合格後、所定の手続きと認定料の支払いを以て、レベル 5 に昇格		

	薬剤師生涯学習達成度 確認試験 受験要件	昇格	降格または レベルの非表示	更新
CL レベル 5	①薬剤師免許取得後 5 年以上 ②CL レベル 5 以上であり、かつレベル 5 に昇格後、1 年を経過	薬剤師生涯学習達成度確認試験の合格を以て、CL レベル 6 に昇格	認定期間（3 年）の最終年度の 1 月 10 日までに実践記録の提出が 18 本に満たない場合。 なお満たした場合でも、Web テスト期間中に所定の手続きと認定料の支払いを完了しない場合は、CL レベル 4 に降格	認定期間（3 年）の最終年度の 1 月 10 日までに実践記録を 18 本以上提出。かつ、Web テスト期間中に、所定の手続きと認定料の支払いを行うこと
CL レベル 6			認定期間（3 年）の最終年度の 1 月 10 日までに実践記録の提出が 18 本に満たない場合。 なお満たした場合でも、Web テスト期間中に所定の手続きと認定料の支払いを完了しない場合は、下位レベルに降格はしないが、CL レベルは非表示となる	

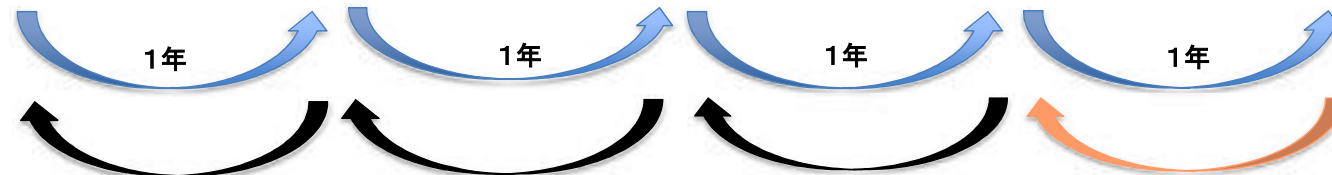
別紙3

日本薬剤師会 JPALS クリニカルラダー(CL)レベル図

※「薬剤師生涯学習達成度確認試験」について

- ◆試験日：試験は年1回、7月の最終の日曜日に実施予定。
- ◆実施方法：Webテストではなく筆記試験(マークシート)。
- ◆試験内容：日本医療薬学会の認定薬剤師試験に準ずる内容。
- ◆試験概要：受験料、試験会場など日本薬剤師研修センターホームページで公開

CL	レベル1	→	レベル2	→	レベル3	→	レベル4	→	レベル5	→	レベル6
Webテスト		Webテスト CLレベル1の PSから出題(5 問)		Webテスト CLレベル2の PSから出題(5 問)		Webテスト CLレベル3の PSから出題 (10問)		Webテスト CLレベル4の PSから出題 (50問)		「薬剤師生涯学習 達成度確認試験※」 に合格するとCLレ ベル6に昇格	
実践記録	1年間で6本以上提出								認定期間3年間で18本以上提出することでCLレ ベル5または6を維持・更新		
PS 398項目	26項目		72項目		73項目		110項目		117項目		
目安	国家試験 合格								管理薬剤師		



2年間の実践記録の提出数が12本に満たない場合は、CLレベルが降格

認定期間3年間の実践記録の提出数が、18本に満たない場合は、CLレベルが降格

【CLレベル6について】
 認定期間中の実践記録の提出数が、18本に満たない場合、CLレベルは非表示となる(下位レベルへの降格はしない)。単年度(4~3月)で実践記録を6本以上提出することで、CLレベル6へ復活可能(申請料あり)。

個人情報保護方針

公益社団法人日本薬剤師会

公益社団法人日本薬剤師会（以下、「本会」という。）は、本会業務を行う上で個人情報を保護することが重大な責務であると考え、本会定款第 61 条の規定に基づき以下のとおり個人情報保護方針を定め、個人情報の保護に努めます。

記

本会は、個人情報について、関係法令その他の規範及び本会策定にかかる各種規程等の定めるところに従い、本会において業務に従事する役員、職員及び本会の委嘱を受けて本会が保有する個人情報を利用する本会会員に対してその周知・徹底を図り、適切にこれを取り扱います。

1. 個人情報の適切な収集、利用、提供、委託

- 一 個人情報の収集にあたっては、利用目的を明示した上で必要な範囲の情報を収集し、利用目的を通知または公表し、その範囲内で利用します。
- 二 収集した個人情報は次の場合を除き、第三者に提供または開示することはありません。
 - (1) あらかじめ本人の同意を得た場合
 - (2) 法令の規定に従い、提供又は開示する場合
 - (3) 人の生命、身体又は財産の保護のため必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
 - (4) 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
 - (5) 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事業を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。
- 三 個人情報を第三者に委託して利用する場合は、当該第三者との間で秘密保持契約を締結した上で提供するなどし、委託先への適切な監督を行います。
- 四 本会サイトでは、利用状況を把握する為に、Google によるアクセス解析ツール「Google アナリティクス」を利用しています。この Google アナリティクスはアクセス情報の収集のためにファーストパーティクッキーを利用しています。アクセス情報は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。Google アナリティクスについての詳細は、以下のページをご参照ください。
<https://www.google.com/analytics>
- 五 日本薬剤師会では、第三者から配信される広告を利用する場合があります。これに関連して、当該第三者が、日本薬剤師会を訪問したユーザーのクッキー情報・広告識別子、日本薬剤師会への訪問やアプリの利用・行動情報などを取得、利用している場合があります。
当該第三者によって取得されたクッキー情報・広告識別子等は、当該第三者のプライバシーポリシーに従って取り扱われます。
ユーザーは、以下の方法にて、当該第三者によるクッキー情報・広告識別子等の広告配信への利用を停止できます。
 1. ブラウザーの場合

当該第三者のウェブサイトに設けられたオプトアウトページにアクセス

2. アプリの場合

利用端末の広告識別子設定画面にアクセス

※詳しい設定方法は、各端末の OS を提供している Apple 社、Google 社などの案内を確認してください。

2. 個人情報の安全管理措置

個人情報への不正アクセス、個人情報の漏えい、滅失、またはき損の予防及び是正のため、安全対策に努めます。

3. 改善措置

個人情報の取扱いに関する社会環境の変化に的確に対応するよう努めます。また必要に応じて本方針をはじめ本会の各種規程等につき、変更、修正又は追加を行うなど、運用の改善に努めます。

4. 開示、訂正請求等への対応

本会は、個人情報について本人から開示、訂正、追加または削除、利用停止などの要望があった場合は、合理的な期間、妥当な範囲内でこれに対応いたします。

5. 苦情の処理

本会は、個人情報の取扱いに関する苦情に対し、適切に対応します。

個人情報に関する照会先：〒160-8389 東京都新宿区四谷 3-3-1
日本薬剤師会 総務部総務課 FAX 03-3353-6270
E-mail so-mu@nichiyaku.or.jp

平成 17 年 4 月 12 日 常務理事打合せ制定
平成 24 年 3 月 13 日 理事会一部改正
平成 27 年 11 月 10 日 理事会一部改正
平成 29 年 7 月 11 日 理事会一部改正
令和 2 年 12 月 8 日 理事会一部改正